

- 都内では、個人直売所や学校給食への出荷が盛ん。  
→環境に優しい安全・安心な地元農産物への関心が高い。
- ハダニ類・アザミウマ類など微小害虫による被害が大きな生産阻害要因。
- 普及指導員と農業革新支援専門員が展示ほを設置し、各種物理的・生物的防除法の実証を行い、試験場の協力を得ながら現地適用性について検討。

## 具体的な成果

1 施設イチゴのUV-Bと天敵製剤の利用によるハダニ類防除の実証

■夜間のUV-B照射＋天敵製剤（カブリダニ類2種）の放飼

①UV-Bの照射 ②2種の天敵放飼 の防除体系を生産者へ導入。

③夜間の照射時間による葉焼けの軽減 についても検討

④2回放飼→1回放飼の有効性調査

2 露地ナスの天敵利用によるアザミウマ類の被害低減実証

①露地ナスの周辺にマリーゴールドを植栽し、ヒメハナカメムシを誘引、定着を図ることでアザミウマを防除

②カブリダニ製剤を放飼することでチャノホコリダニを防除

③紫色LED照射による天敵誘因

## 普及指導員の活動

令和3年

■防除技術の展示ほを都内2カ所に設置

■普及員指導員向け研修、OJTに活用

■広報誌等に掲載

令和4年

■防除技術の展示ほを都内3カ所に設置

■普及員指導員向け研修、OJTに活用

■講習会開催、広報誌等に掲載

■都内他地域への技術紹介

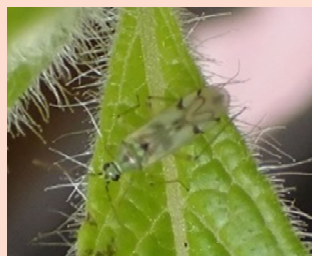
令和5年（予定）

■成果のとりまとめ・事例集の作成

■技術支援

3 タバコカスミカメによる施設キュウリのアザミウマ防除実証

①キュウリ栽培施設内にゴマを植栽し、タバコカスミカメ製剤を放飼することでアザミウマ類を防除



## 普及指導員だからできたこと

・専門知識に基づき、試験研究機関との連携のもと、新技術や新品目の導入を図ることができた。

・他県の先進事例を情報収集し、効果的な活動に結びつけた。

東京都

## 野菜類の難防除病害虫に対する防除技術の導入促進

活動期間：令和3年度～継続中

### 1. 取組の背景

都内には、個人直売所や学校給食等への出荷が盛んに行われており、安全・安心な地元農産物への関心が高まっている。このため、従来から化学農薬の使用や散布回数を減らすなど、環境に優しい栽培に取り組みが注目されている。一方で、ハダニ類やアザミウマ類などの難防除病害虫による被害が大きな生産阻害要因となっている。

このため、普及指導員と農業革新支援専門員（以下、専門員）により、物理的、生物的防除手段を用いた病害虫技術の導入、定着を図り現地での展示において実証することで、環境に優しく安全安心な農産物の生産を推進する。

### 2. 活動内容（詳細）

- (1) 施設イチゴの UV-B と天敵製剤の利用によるハダニ類防除の実証（令和3～実施中）

本プロジェクト開始前より UV-B および天敵製剤を導入して実績を挙げている施設において、天敵製剤の放飼数を従来の2回から1回に減らした場合の効果を検証した。情報共有を図るため、適宜試験場研究員や UV-B 販売メーカーと情報交換を行った。また、天敵の定着状況やハダニ類の発生初期を見逃さぬよう、普及指導員による巡回を頻繁に行った。本年度は経済性を評価している。

内容については、普及センターの広報誌「とうきょう普及インフォメーション」に掲載し、生産者への周知を図った。

- (2) 露地ナスにおける天敵利用によるアザミウマ類の被害低減（令和3年）

露地ナス植栽圃場周囲に、アザミウマ類の天敵であるヒメハナカメムシを誘引・定着させるためにマリーゴールドを植栽し、被害低減効果を調査した。さらに、カブリダニ製剤を放飼することで、チャノホコリダニによる被害軽減を実証した。

- (3) 紫色 LED 照射による露地ナスの土着天敵誘因（令和4年度～実施中）

露地ナス植栽圃場周囲に植栽したマリーゴールドへの、ヒメハナカメムシの誘因定着をさらに促すため、紫色 LED 照射を用い、被害およびヒメハナカメムシの飛来数を無処理と比較する。

- (4) タバコカスミカメによる施設キュウリのアザミウマ防除（令和4年度～実施中）

タバコカスミカメ製剤を施設キュウリ圃場に放飼した。放飼しない施設とアザミウマの発生及びキュウリ果実の被害状況を比較し、実用性を検討する。施設内にはタバコカスミカメの定着、増殖を促すためにゴマを植栽している。



### 3. 具体的な成果（詳細）

#### (1) 施設イチゴのUV-B と天敵製剤の利用によるハダニ類防除の実証

これまで本施設では、UV-B 照射に加え都及びチリカブリダニ製剤のそれぞれ2回放飼を行ってきた。さらに経費を節減させるため、1回放飼を試みた。その結果、2月下旬までにスポット的にハダニの発生がみられたものの、発生株とその周辺のみ農薬を散布し、密度を抑えることができた。

#### (2) 露地ナスにおける天敵利用によるアザミウマ類の被害低減

ヒメハナカメムシが定着し、慣行区と比較してナス果実の被害度も低減した。

#### (3) 紫色 LED 照射による露地ナスの土着天敵誘因

2カ所の圃場に現地実証展示ほを設置し、現地における適応性を評価している。

#### (4) タバコカスミカメによる施設キュウリのアザミウマ防除

実証展示ほを設置している。これまでに植栽したゴマ上にタバコカスミカメの幼虫が見られたことから、施設内での本種の増殖が確認された。施設内に設置した黄色粘着トラップに誘殺されたアザミウマ数についても、タバコカスミカメ放飼区では少ない傾向にある。

### 4. 農家等からの評価・コメント（町田市内イチゴ生産者）

驚くほどよく効いている。農薬の使用回数が減っただけでも体がずいぶん楽になり、他の作業に従事できる。天敵に配慮する農薬はこれまでのものよりやや気を使うもあるが、それ以上に効果は評価できる。この防除体系を引き続きやっていきたい。

### 5. 普及指導員のコメント（農業振興事務所振興課 小野 剛）

農総研との連携も図り、生産者の意向も踏まえつつ展示ほを組んでいる。生産者によっては、天敵に配慮した農薬の選定が難しいようなので、引き続き支援していきたい。成果は順調に挙がっているので、専門員として、先進事例の情報収集などで普及指導員をサポートしつつ、効果的な普及活動の展開に努めている。

### 6. 現状・今後の展開等

引き続き調査と検証を続ける。なお、この取組は、重点プロジェクトとして位置付けている。